

# 学会活動を通じ、生産現場に 次世代に繋ぐイノベーションを

田代民治 土木学会第104代会長

一昨年、土木学会は創立100周年を迎えました。長期目標として、社会と土木の100年ビジョン「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」が宣言され、これを具体化するためのJSC E2015が策定されました。

2年目となる本年は、100周年以来、より活発化した学会活動を引き続き、さらに盛り上げていきます。

さて、本年4月に発生した熊本地震では、自然災害の恐ろしさを痛感する

とともに、被害調査や復旧・復興、次の備えにおける土木界および土木学会の役割の大きさを再認識しました。

一方、土木界では、生産年齢人口の減少の影響もあり、「生産性向上」、「担い手確保」が喫緊の課題となっています。この問題を解決しなければ、自然災害に強い社会資本の整備、維持管理を継続できなくなる恐れがあります。

私は会社人生の中で約30年間現場

勤務を経験してきました。今回、私のような経歴の者を土木学会会長にご推挙いただきましたので、厳しい就労環境下で疲弊しつつある生産現場に目を向けた活動を主体として取り組みたいと思っています。

本年4月、会長特別タスクフォース「現場イノベーションプロジェクト」次世代に繋ぐ生産現場のあり方」を立ち上げました。関連する10の委員会が連携し、活動を始めていただいています。今後、生産現場により近い方、

異業種の方にもご参加いただき、土木学会の裾野を広げることにもつながりたいと思っています。

土木学会では、本部、支部、海外でさまざまな素晴らしい活動が行われています。学会会員の皆様のご努力に敬意を表するとともに、引き続き、学会活動にご支援・ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

